

第1回「第五次総合計画策定に係る意見交換会」会議録

1 開催日時

平成24年10月30日（火）

開会 午前9時30分

閉会 午前10時55分

2 開催場所

尾張旭市役所4階 第1委員会室

3 出席者

（市議会議員 18名）

岩橋 盛文、若杉 たかし、相羽 晴光、秋田 進、伊藤 恵理子、伊藤 憲男、
片渕 卓三、川村 つよし、篠田 一彦、武田 なおき、花井 守行、早川 一郎、
牧野 一吉、松本 和夫、丸山 幸子、みとべ 茂樹、森 和実、山下 幹雄

（市職員 7名）

企画部長 川原 芳久、総務部長 森 修、市民生活部長 加藤 雄二、
健康福祉部長 堀部 茂樹、都市整備部長 桜井 政則、消防長 角谷 昭彦、
教育部長 長江 建二

4 欠席者

（市議会議員 1名）

大島 もえ ※産休のため

5 傍聴者数

0名

6 出席した事務局職員

（議会事務局）

議会事務局長 大岩 正紀、議事課長 志村 俊一

（市職員）

企画課長 若杉 浩二、企画部企画調整主幹 石坂 清二、
企画課長補佐 臼井 武男、企画課主査 久野 善之、企画課主査 中川 暢頭

7 議題等

- (1) 将来の都市像（案）について
- (2) その他

8 会議の要旨

企画部主幹	<p>皆さまおはようございます。</p> <p>本日は、お忙しい中、ご出席いただきありがとうございます。第1回「第五次総合計画策定に係る意見交換会」を開催させていただきます。</p> <p>開催にあたりまして、企画部長からごあいさつ申し上げます。</p>
企画部長	<p>改めまして皆さんおはようございます。</p> <p>本日は、ご多忙のところ、「第五次総合計画策定に係る意見交換会」にご出席いただき、誠にありがとうございます。</p> <p>皆さまもご承知のとおり、総合計画につきましては、地方自治法の一部改正によりまして、策定の根拠規定が廃止され、総合計画の策定は義務付けられたものではなくなりました。</p> <p>しかし、本市では、長期的な視野に立ち、計画的な市政運営を図るために、目標を定めたまちづくりの指針が必要不可欠であるとの判断をいたしまして、第五次総合計画を策定することとし、平成23年度に実施をいたしました市民意向調査を皮切りに、次期総合計画の策定を進めているところでございます。</p> <p>事前に配布させていただいた分析資料にもありますように、人口減少社会の到来や以前から言われております少子高齢化の進展など、本市を取り巻く環境もこれまで以上に厳しくなっております。こうした背景を踏まえまして、これまでの本市の財産を活かし、市民と行政がみんなで知恵を絞り一体となって、より魅力あるまちづくりを進めてまいりたいと考えております。</p> <p>今回、新たに実施するこの意見交換会におきましては、議員の皆さまからご意見をいただき、今後のまちづくりの指針となる総合計画をより良いものにしていきたいと考えておりますので、本日はよろしく願いいたします。</p>
企画部主幹	<p>本日は、将来の都市像の案についての意見交換でございますが、なにごと初めの取り組みですので、確認の意味で、改めて開催の趣旨を説明させていただきます。</p>
企画課長補佐	<p>改めまして、開催の趣旨を説明させていただきます。</p> <p>本意見交換会は、第五次総合計画策定にあたって、これまでの総合計画策定に関する議会の役割を見直し、二代表制としての議会に関わっていただく度合いを高めるため、新たに実施するものです。</p> <p>意見交換会は、全議員を対象に実施し、計画策定の節目ごとに市が作成する素案について説明させていただき、質疑応答、意見聴取の機会を設けるものです。</p>

	<p>意見交換会は、本日を含めまして、全部で4回開催する予定としております。</p> <p>最後に、本意見交換会は、「公開」で行います。また、意見交換の内容については、記録をとり、その要旨を市のホームページで公開してまいりますので、あらかじめご承知おきいただきますようよろしくお願いいたします。</p>
企画部主幹	<p>それでは、次第に沿って進めさせていただきます。まずは、次第1「将来の都市像（案）について」です。</p> <p>まず、事務局から配布資料の説明をさせていただきます。その後、事前にいただいております3件の質問についてお答えをさせていただきます。その後、事前にいただいたもののほか、本日説明を聞いたり、今まで資料を見てきて疑問に思ったことや意見等がありましたらお願いしたいと思います。</p> <p>それでは、お手元に配布させていただきました資料を用いまして、将来の都市像（案）を検討してきた経緯、それから都市像に込めた思いなどについて説明をさせていただきます。</p>
企画部主幹	<p>（資料に基づき説明）</p> <p>この説明用資料のほかに、かなりのボリュームの資料を送付させていただきました。これは、将来の都市像の案が固まるまでの様々なデータの分析や、検討経緯などについてご理解をいただきたいとの思いから、分量が非常に多くなったものでございます。</p> <p>（「1 将来の都市像の定義」について）</p> <p>都市像につきましては、「長期的かつ普遍的な市民共通のまちづくりの理念」と定義付けをし、検討してまいりました。したがいまして、市の命運を賭けるような斬新なキャッチフレーズのようなものではございませんので、ご理解をお願いしたいと思います。</p> <p>（「2 これまでの総合計画」について）</p> <p>ここで、「〇〇都市」といった表現につきまして、今までの検討の経緯などを、ご説明させていただきます。</p> <p>これまで検討してきた中では、「健康都市」か「公園都市」のいずれかを使用するという意見もございました。しかしながら、様々な角度から分析、検討を行い、キーワードを探っていた結果、「都市」ではなく、ひらがなの「まち」を使用することといたしました。</p> <p>これは、「都市」と比較しまして、「まち」の方が柔らかい表現であり、</p>

市民の皆さまに親しみやすいのではないかとことや、人口や財政規模が右肩上がりの時代は、圧倒的に多くの自治体が「都市」を用いておりましたが、「成長」から「成熟」の時代へ転換してきている現在では、ひらがなの「まち」を使うケースが増えてきているのも現状でございます。

（「3 将来の都市像の検討経緯等」について）

新たな取り組みとしまして、将来を担う世代の総合計画策定への参画を促すとともに、本市が抱える課題の理解や分析能力の向上を図ることも目的として、課長補佐級以下の中堅・若手職員によるワーキンググループを設置して、様々な検討を行ってまいりました。

ワーキンググループは、選考した10名と、公募に立候補した2名の計12名で、男性8名、女性4名、20歳代から40歳代までの職員で検討を行いました。

今回、市民意向の把握の一つの方法として、18歳以上を対象に市民意向調査を行いました。それに加えまして、次代を担う市内の中学2年生にもまちづくりに関するアンケートを行いました。

その結果、約700人の生徒から回答をいただき、都市像検討の際の、参考資料として活用させていただきました。

検討の経緯としましては、人口動態分析として尾張旭市、瀬戸市、長久手市、名古屋市守山区の人口の動きについて、分析を行いましたほか、施策ごとにSWOT分析を行いました。

SWOT分析とは、内部環境としての市の「強み」や「弱み」、外部環境としての、市がコントロールできない「機会」や「脅威」について、36の全ての施策ごとに洗い出しを行いました。

表の中では、ワーキンググループの会議は計6回開催したと記載されておりますが、会議への出席だけでなく、宿題をお願いし、時間外や自宅でも様々な作業をしていただき、事務局として大変感謝しております。

（「4 将来の都市像の検討シート（まとめ）」について）

この資料につきましては、検討結果の概要をまとめたものでございますので、かなり簡略化したものであることを、ご承知おきいただきたいと思います。

今、説明しました⑤の4つの重要事項と、策定会議で決定しました将来の都市像（案）の「みんなで支えあう 緑と元気あふれる 住みよいま

ち「尾張旭」を見比べていただくと、若干の違いがお分かりかと思えます。

一点目は、「つながりのあるまち」と「みんなで支えあう」でございます。ワーキンググループでは「つながり・つなぐ」につきましては、「みんなの知恵や経験をつなぎ合わせて、力を結集してまちづくりを進める」という意味合いで、この言葉を選びました。

しかし、策定会議では、「つなぐ」は、いろいろな解釈ができ、深い意味があるので分かりづらく、都市像がぼやけてしまうのではないかといった意見があり、超高齢社会における市政運営には「みんなで支えあっていく」という事が必要不可欠である、との観点から、「みんなで支えあう」に変更しました。

もう一点は、「住みたくなるまち」と、「住みよいまち」の関係でございます。ワーキンググループの検討では、重要事項の1つに掲げたものの、将来の都市像の素案には「住みたくなるまち」といった言葉は入っておりませんでした。

これは、「住みたくなるまち」以外の3つの重要事項を推進していけば、おのずと「住みたくなるまち」になっていくといった考えからでございます。

しかしながら、策定会議では定住者を増加させたいという思いから、将来の都市像に「住」や「住む」という文字は入れたいとの結論に達しました。ただし、ワーキンググループの「住みたくなるまち」では、市外の人をターゲットとした表現であるため、市内の方に「住んで良かった」「住み続けたい」と思われるようなまちづくりを進めていく必要があるとの思いから、分かりやすい言葉で、「住みよいまち」に変更した経緯がございます。

（「5 将来の都市像（案）」について）

ここでは、庁内で検討してまいりました都市像を分解し、それぞれの言葉に込めた思いを記載しております。読み上げをさせていただきます。

（将来の都市像の4つのフレーズの意味及び将来の都市像に「尾張旭」を加えた理由を読み上げ）

（「6 都市像実現に向けての各政策の関わり」について）

ここでは、将来の都市像を実現させるために、それぞれの政策がどのように関わっていくのかを、マトリクスに落とし込みました。例えば、左から2列目、「みんなで支えあう」の政策1の分野では、「高齢者、障がい者を支える共助の促進」や「地域福祉の推進」といった取り組みが、

	<p>関わってくるということでございます。</p> <p>施策や事務事業レベルで考えますと、ここに表記の無いものは多くありますが、ここに書いてないからと言って、事業を「やらない」とか「手を抜く」ということではございません。ここに記載したものは、あくまでも、将来の都市像を実現させるために、どういった分野が、どう関わっていくかを表したものでございますので、ご理解をお願いしたいと思います。</p> <p>長くなりましたが説明は以上です。ありがとうございました。</p>
企画部主幹	<p>それでは、事前にいただいております質問に答えてまいります。</p> <p>なお、先程の資料の説明を聞かれて、質問事項に関連して補足する内容がございましたら、お願いしたいと思います。まず、事務局から質問を読み上げさせていただきますので、その後補足があれば説明をお願いいたします。</p> <p>それから、事前に質問いただいた以外の部分は、事前にいただいた質問の回答が全て終わってからお願いしたいと思いますので、ご協力をお願いいたします。</p>
企画課長補佐	<p>それでは事前にいただいている質問についてお答えさせていただきます。質問は、山下議員、花井議員、松本議員のみんなのありが党の皆さんから、全部で3項目のご質問をいただいております。</p> <p>項目ごとに質問を読み上げさせていただきます。</p> <p>(1) 「1 将来の都市像の定義」について、長期的かつ普遍的な市民共通のまちづくりの理念という定義は、どのように公表されるかという質問でございます。</p> <p>(2) ① また、普遍的な市民共通のまちづくりについて、「普遍」の解釈をお願いします、哲学的な概念形成をもつての定義づけについて、「普遍」と「共通」は、同義語とも考えられますが、どのようにお考えでしょうかという質問でございます。</p> <p>② 市民に対して理解いただける文言、定義であるかの検証はされましたでしょうかという質問でございます。</p> <p>以上が1項目めの質問事項でございます。</p>
企画部主幹	それでは補足があればお願いします。
山下議員	質問事項にご回答いただければ結構です。
企画課長補佐	<p>それではお答えさせていただきます。</p> <p>まず(1)といたしましては、総合計画書の将来の都市像のページに、定義として掲載する予定をしております。現行の第四次総合計画書では、23ページになりますので、また後ほどご参照いただきたいと思いますとお</p>

	<p>ります。</p> <p>続きまして、(2)の①について、「普遍」についての解釈としては、「普遍」とは、広く行き渡ること、特に全ての物に当てはまることを意味しており、「共通」と類義語とは言えますが、哲学的な意図を表しているものではありません。</p> <p>また、「長期的かつ普遍的な」という言葉は、将来の都市像が長期間に渡り変わらず、かつ広く一般的なものであることを示しております。さらに、第五次総合計画策定後には、この都市像が年齢や性別を問わず多くの市民のかたに受け入れられるものとなるように期待を込め、「市民共通の理念」としております。</p> <p>したがって、類義語ではありますが、意味が重複しているとは考えておりません。</p> <p>続いて、(2)の②といたしましては、言葉の1つ1つを検証することは困難ですが、「普遍的な」という言葉は市民の皆さんにご理解いただけるものと考えております。また、他の自治体においても「普遍的な」という言葉が将来の都市像の定義として使用されておりますことも申し添えます。</p> <p>以上が1項目めのご質問に対する回答です。</p>
企画部主幹	<p>事前にいただいた質問に対してお答えをさせていただきました。よろしかったでしょうか。</p>
山下議員	<p>内容的には理解しました。市民に対してこうした定義がうまく伝わるかという懸念があり質問しました。意味合いをこうしてお聞きしたことで理解できましたが、定義の文言だけで理解していただくことは厳しいのではないかと思います。やはり8万市民に伝えるためには、工夫が必要かもしれないとも思っております。</p> <p>以上です。</p>
企画部主幹	<p>では、続きまして次の質問についてお答えさせていただきます。</p>
企画課長補佐	<p>2点目の質問事項は、分析結果並びに新市長の政策方針にある健康都市継承意向と将来の都市像(案)との整合性についてです。</p>
企画部主幹	<p>何か補足説明がございましたら、お願いします。</p>
山下議員	<p>第一次から第四次までの総合計画のキーワードとなる文言につきましては、公園都市や健康都市などが挙げられると思います。</p> <p>新市長は今までの健康都市を継承するとの考えを持って当選されました。また、市民意向調査などの結果でも、健康はかなり上にあったものですから、将来の都市像の中で健康をどのように読み取ったら良いのか、又、市民のかたに読み取っていただくのかについて質問を行うものです。</p>

企画課長補佐	<p>それではお答えさせていただきます。</p> <p>健康都市の取り組みについては、平成16年に「健康都市宣言」を行い、健康を本市のブランドとすべく、各種の施策を進めてきたところで。ご承知のとおりまちづくりアンケートにおきましても、約半数（46.4%）の市民の皆さんが、本市が健康都市を目指していることを認知していらっしゃるなど一定の成果が出てきていると考えております。</p> <p>また、将来の都市像の検討にあたり、次代を担う中堅・若手の職員が様々な分析・検討を行い、「目指すまちづくりの姿」を明らかにした結果、4つの重要事項を抽出した訳でございます。</p> <p>「つながりのあるまち」、「豊かな緑を守り・活かすまち」「住みたくなるまち」の3つのほかにも、お話しさせていただいたとおり、本市のブランドとなりつつある健康づくりの継続という視点、それから健康や元気は世代を超えた望みであり、超高齢社会も見据えると元気な高齢者を増やす必要がある、そうした健康づくりの先にある笑顔や元気があふれるまちという項目も4つ目の重要事項として抽出しているものであります。以上この4つの重要事項を抽出した結果をまとめましたものが本日お示しをした都市像ということになっております。</p> <p>なお、将来の都市像に「健康都市」という直接的な表記はございませんが、配布資料の3ページに記載したとおり、「元気あふれる」の中にその理念は含まれており、市長の意向との整合は図られていると考えております。</p> <p>最後に、将来の都市像に掲げないからといって、健康都市の取り組みを継続しないということではございません。よろしくご理解を賜りたいと思います。</p>
企画部主幹	今、回答させていただきましたが、ご質問等があればお願いします。
山下議員	「元気あふれる」の中に、健康都市の継承が含まれているとの説明でした。4つの重要事項には優先順位はなく、その内容が都市像に含まれていると理解したいと思っております。これらのことを市民に分かりやすく伝えていって欲しいと要望いたします。
企画部主幹	ありがとうございました。では、3つ目の質問に移ります。
企画課長補佐	<p>では、3つ目の項目でございます。</p> <p>1点目のご質問は、緑あふれるという項目のうち、【政策5】自然環境・豊かな緑の保全について、他の事務事業に対しての弊害は、検討されたか。2点目のご質問は、「同じ項目のうち、【政策6】産業振興・農地の保全について、街並み整備（区画整理事業）や他の産業振興との整合性</p>

	について如何に考えているか。」というものでございます。
企画部主幹	では、補足があればお願いします。
山下議員	<p>緑は将来の都市像になっており、保全していくべきものと思っています。また、中には農地の緑も保全すべき対象に含まれていると思いますが、緑の保全を掲げることによって他の事務事業、例えば、平子町北の公共用地を保全するか否か等について弊害がでてこないかといった懸念があり、質問をしたものです。</p> <p>また、今後人口を増加させる、成長戦略的なことを考える際に、農地や緑の保全だけを進めているのでは、それらのことが達成できない可能性があるということが考えられるのではないかと、また、成長を阻害する要因になりはしないかということ懸念し、質問したものであります。</p>
企画課長補佐	<p>1点目のご質問については、市民意向調査において、本市の魅力の第1位は豊かな緑であり、市民の愛着は大変深いものがあると考えております。ただし、緑を守らんがために、全ての開発を禁止したり、必要以上に緑を増やしたりすることは、市民の皆さんは望んでいないと考えております。本市の恵まれた緑や水辺などの自然環境を保全しながらも、それぞれの土地利用区分に応じて、計画的かつ適切な土地利用を推進していきたいと考えております。</p> <p>続きまして、2点目については、区画整理による街並み整備との整合ですが、農地を保全するがために区画整理事業を行わないということではございません。むやみに農地を減少させることなく、できる限り保全してまいりたいというものでございます。</p> <p>他の産業振興との整合性につきましては、都市計画マスタープランの土地利用フレームの中では、今後の土地利用の需要や社会経済情勢の変化などによって、工業用地の確保が必要と判断した場合には、見直していくこともあり得ますと記載されていますので、今回の「緑あふれる」の部分の「農地の保全」につきましても同様の考え方でございます。</p> <p>事前にいただいた質問のご回答は、以上です。</p>
山下議員	<p>今後、施策・事務事業を順番に検討していくにあたり、いろいろな弊害が生じてくる可能性もあるということをご心得、進めていくべきだと考えております。</p> <p>今、ご回答いただいたようなことが、広く市民に伝わるようお願いしたいと考えております。</p>
企画部主幹	それでは、事前にご提出いただいたものにつきましては、終了いたしましたので、他に、どなたでも結構ですので、ご意見、ご質問がある方は挙手をお願いしたいと思います。

質問というより、いくつかの意見を述べたいと思います。

将来の都市像の定義に、普遍的なまちづくりの理念とありますが、10年で更新していかなければならないものなのかということをお印象として持っています。

現在の都市像に愛着があることもそのように感じる要因と考えますが、第四次総合計画の将来の都市像のままでも良いのではないかとすることも感じています。

私は、将来の都市像は、尾張旭市を表現するキャッチフレーズのようなものだと思っており、イメージや語感が重要と感じています。日本語で語感が良いのは、七五調ではないかと感じています。第四次総合計画の都市像は、概ねそれに当たっています。

第五次総合計画の将来の都市像を、いつ市民の前で話すのかと考えると、市長が最もその機会が多いと思いますし、議員である私たちも使うという点で、話しやすいことが重要と思います。これまでの説明を聞き、こういった議論の経過があり、このような案になったのだなということはおよく分かりますが、使いにくいという思いはあります。

これまでの〇〇都市を、まちという表記に改めたいということは理解できますし、尾張旭を都市像に含めたいという点についても理解はできるものの、そもそも検討している事項は将来の都市像であることから、〇〇都市でも良いのではないかと思います。

また、尾張旭という名前を追加した点についても、実際に使うときのことをイメージすると、文書として、「尾張旭市の都市像を、〇〇〇〇尾張旭としました」と言うように、尾張旭という部分が重なりはしないか、また、発言する際のことを考えると、尾張旭市の行事等で発言することが当たり前なことと感ずるので、尾張旭を入れる必要が無いのではないかとこの点で疑問を感じます。

検討の意気込みや尾張旭市を宣伝したいということは理解できますが、発言するときには、語尾の尾張旭を省略することになり、都市像が10年持たないのではないかと懸念も感じます。

次に、将来の都市像に、公園というフレーズが入らないことが残念に感じます。これまで、公園都市というフレーズを約20年間使ってきた尾張旭市は、区画整理で整備した公園が市内随所にあり、これが本市の売りではないかと思います。このほかにも森林公園や第四次総合計画期間中に整備を進めてきた矢田川河川敷なども公園に含まれるものであることから、公園都市という言葉には強い愛着を感じます。

最近、子供を連れて近所の公園に行きますが、歩いて行ける場所に小

	<p>さな子供を遊ばせられる公園があることは非常に生活してありがたいことと特に感じています。公園都市、まちの中が公園のようなまちになっていくということが、今までの都市像のイメージであることを考えると、考え方を覚える訳ではないものの、公園というフレーズをなくしてしまうことは残念に感じます。</p>
森議員	<p>斬新なキャッチフレーズを求めているとの説明でしたが、全ての項目を全部押し込んだ欲張りなフレーズと感じます。</p> <p>また、健康という単語そのものは記載されないとのことですが、元気というフレーズが入っていれば、健康という意味合いは含まれていると考えられます。</p> <p>少し引っかかる部分はありますが、若い職員が中心となり、ここまでの検討を進めてきたので、この案を直すことは難しいのではないかと考えています。</p>
武田議員	<p>尾張旭市のまちづくりは、転換期に来ていると考えております。みんなの総意で検討を進め、キャッチフレーズを覚えることも大切だと感じています。</p> <p>将来の都市像を覚えることで、尾張旭市がまちづくりの方向性を覚えるというメッセージを発信することができるのではないかと思います。</p> <p>尾張旭市は、名古屋市のベッドタウンとして、青年都市として、発展してきましたが、人口も頭打ちとなり、今後、高齢化なども進行してきており、尾張旭市が今後どうしていくのかという転換の時期を迎えていることから、新しい都市づくりを進めるという点で、将来の都市像を覚えることには賛成したいと考えています。</p> <p>以前、本市は人口が増加傾向にあり、特別な施策を実施しなくとも、他市の施策を真似していればよいという考えの人もいたと記憶していますが、オリジナリティのないまちづくりでは、やがて人口も減少に転じ、行き詰まりを迎えてしまうことになるのではないかと思います。</p> <p>面積の小さい本市の特性を考えると、建物を建てたり、レジャー施設を作ったりすることは難しいと感じています。このようにハードを整備することは難しいことから、本市に必要なことは人づくりであると考えています。例えば、本市で教育を受けた人が、世界的に活躍することも大きな成果です。人材育成を進めていくことを、もっと明確に打ち出し、将来の都市像に含めていくという視点も必要ではないかと思います。</p>
伊藤（憲）議員	<p>第四次総合計画作成時に比べ、大きく環境は変わってきています。人口増加は望めず、高齢化も進展するなど、財政運営の難しい時期に突入することを考えると、人材を活かしたまちづくりや市民と行政の協働の</p>

	<p>まちづくりがこれからは必要と考えています。</p> <p>また、商店街が衰退している現状を考えると、買い物弱者対策なども考えた中で施策を検討していただきたい。</p> <p>南北方向に走る公共交通が脆弱であり、コミュニティバスなどについても、施策を検討していく中で併せて考えていただきたい。</p> <p>教育部門では、尾張旭市で育った子供たちが、ゆくゆくは本市に戻ってくることも考えると、子どもが育てやすい環境にあるまちや、まちの魅力を高めていくことが必要だと考えています。</p> <p>そのためには、心に残るイベントの開催なども施策を考える上でいいのではないかと考えています。</p>
<p>牧野議員</p>	<p>将来の都市像は、キャッチフレーズではないと考えているのであれば、問題ないとも言えますが、これまでの「ともにつくる」というフレーズはまちをつくるということがイメージできるものでしたが、「みんなで支えあう」というフレーズだとまちづくりは完成し、今後はみんなで支え合っていこうというように感じ、インパクトが足りないように感じます。</p> <p>説明の中で、みんなでまちづくりを進めていくということは理解ができましたが、表現のインパクトは弱くなったように感じます。</p>
<p>伊藤（恵）議員</p>	<p>みんなで支えあうというフレーズには、市長の思いも強く含まれていると感じました。これから高齢者が増えていく本市の状況を踏まえると支えあいという部分には大変賛成ができます。</p> <p>ただし、将来の都市像そのものが長いという印象は受けます。</p> <p>また、健康都市をこれからも発信していくことが重要であると考えています。都市像（案）についての説明を聞いたので理解はできましたが、フレーズを目にしただけで健康都市ということが伝わらないことが、この案の弱い部分であると感じています。</p> <p>体の健康のみならず、まちの健康に関する部分も「元気」という中に含まれていると思いますが、健康都市という言葉都市像に含めて欲しかったという思いは持っています。</p>
<p>企画部長</p>	<p>策定会議の議論の中でも、第四次総合計画の将来の都市像「ともにつくる 元気あふれる 公園都市」に愛着があり、変更することについて多くの意見が出され、多くの時間を費やして検討を進めてきました。</p> <p>都市像を変える要因は、新市長の誕生や人口減少、超高齢社会への突入のほか、税収の減少、財政状況の悪化などの様々な環境変化と考えています。</p> <p>第五次総合計画の策定にあたっては、若い職員にも総合計画に関わって欲しいということから、これからの10年を担っていく職員の思いを</p>

	<p>込めたものとしたと考えました。また、ワーキンググループでの成果物を今後の施策等の検討の中でも活かしていきたいと考えています。</p> <p>策定会議の中でも公園都市や健康都市を都市像に含めたいという意見が出されたことも事実です。</p> <p>健康都市の推進は、第四次総合計画を策定した後に、進めてきたことから現計画には掲載されていません。第五次総合計画においては、施策の検討を進めていくにあたり、「健康都市の推進」を施策として掲げていきたいとも考えています。</p> <p>語呂の悪さや都市像の覚えにくさについて意見も出されましたが、最終的には市長が中堅・若手職員の検討結果を活かしたいとの考えから、本日お示しした案となりました。</p> <p>本日、議員の皆さんからいただいた意見は、策定会議などの場で、市長、副市長にも報告します。また、今後、施策体系を検討していく中で、事務局のみならず、今日出席した部長級職員からも各担当に伝え、検討に活かしていきたいと考えています。</p> <p>これからも必要に応じて、皆さまから事務局や各担当課に意見をいただきたいと考えています。</p>
相羽議員	<p>「元気あふれる」について、人口減少により就労人口が減っていくことを考えると、雇用を創出していくようなことも考えてはどうでしょうか。守ることも大切だが、若者が本市に転入してくるような施策を考えていただきたいと思います。</p>
山下議員	<p>本日、出された意見なども踏まえて、今後も議論を進めていくと思いますが、説明責任の観点から、将来の都市像のこれまでの検討経緯を市民に伝えて欲しいと考えています。</p> <p>説明責任が十分に果たされれば、本日晒された将来の都市像の案は、再考する必要はないものと考えています。</p>
伊藤（憲）議員	<p>第四次総合計画から、環境変化が生じていることを十分に踏まえて、今後も検討を進めていただきたいと思います。</p>
松本議員	<p>自分では考えられない素晴らしい文言が出来てきたと思いますが、計画を遂行していくことも重要と思います。計画を遂行していく際に、市職員には積極的に関わっていただきたいと考えています。</p>
企画部長	<p>それでは、他にご意見は無いようですので、次に移ります。</p>
企画部主幹	<p>それでは、次第の2「その他（次回意見交換会の日程）」に進ませていただきます。次回の意見交換会の開催予定でございますが、年明け1月頃を予定しており、個別の施策の検討に入っていきたいと考えております。日程等が決まりましたら、またお知らせさせていただきます。</p>

	<p>なお、これから具体的な施策の検討に入るため、質問も多くなっていくことが予想されます。今回、2日前までに質問の提出をお願いしておりましたが、次回以降は3日前までに提出時期を変更していただきたいと思いますがいかがでしょうか。</p>
	<p>(異議なしの声あり)</p>
企画部主幹	<p>それでは、閉会にあたりまして、企画部長よりごあいさついたします。</p>
企画部長	<p>次回は、1月に開催したいと考えておりますので、よろしく願いいたします。本日は、長時間に渡り多くのご意見をいただき、誠にありがとうございました。本日いただいたご意見を計画の策定に活かしていきたいと考えております。</p> <p>次回の意見交換会につきましても、よろしく願いいたします。</p> <p>なお、本日の結果につきましては、要旨を取りまとめ、後日お送りさせていただきます。</p> <p>本日はどうもありがとうございました。</p>
企画部主幹	<p>これを持ちまして、第1回「第五次総合計画策定に係る意見交換会」を終了させていただきます。ありがとうございました。</p>